



発行所
佐賀市与賀町 1-24
佐賀県PTA連合会
☎0952-22276
印刷 佐賀印刷社

発行責任者
会長 江田 明弘

語り合おう！
「家庭の日」
(毎月第三日曜日)

未来の自分へ



海青中
古賀可那子

「国際社会に貢献できる人になりたい」これが私の夢です。人の笑顔を見ることが好きな私は、沢山の人の関わることでできる仕事につきたいと考えています。

そう考えるようになったのは、私にも沢山の人の出逢いがあったからです。人との出逢いは私を強く豊かなものにしました。私も、出逢った人が良い方向に変わるきっかけになりたいです。そこで考えた仕事が「ユニセ

フ」です。世界中の恵まれない子どもたちを少しでも元気づけたい。笑顔にしたい。簡単なことではありません。その達成のためには、確かな学力と豊かな人間性を身につけていかなければなりません。

もし夢が変わったとしても、叶えられなくても、きつと未来の私は人との関わりを大切にしてい、輝いていると信じています。そして、誰に対しても「ごめんさい」と言える素直さ「ありがとう」と言える感謝の気持ちでこれから持ち続けていきます。



轟小
古川 真紘

私には、将来の夢があります。それは、テニスプレイヤーです。テニスプレイヤーという夢を持ったきっかけは、お父さんがテニスのラケットを買ってくれたことです。ラケットを買ってもらったしゅんかんテニスプレイヤーになりたいと思いました。

私には、大坂なおみ選手という目標にしている人がいます。テレビでよくこの選手を見る

ことがあります。テニスコートで一生けん命プレーしている姿を見ると目がはなせません。中学校では、テニス部に入ろうと思っています。まず、ルールを知ることから始めたいです。日常生活では、あいさつや礼儀など基本的なことから気をつけたいです。

テニスプレイヤーになって、テレビでも活やくし、両親に感謝の気持ちをしっかりと伝えたいと思います。歴史に残るプレイヤーになりたいです。



上峰小
藤吉 恋彩

私は人のお世話をすることが好きです。人のお世話をすることはたくさんあると思います。今はその中でも、薬剤師になりたいです。そして、もし、この文を大人になった私が見ることができているなら聞きたいです。私はどんな仕事をしていますか？なりたっている仕事には就けていますか？ やりたい事は出ていますか？

今の私はクラスを中心となって周り人たちの事を考えながら意見を聞いて、話を進めたり、色々な事に自分から率先して手を挙げられるように努力しています。そうすることで相手の気持ちを考えられる人になり、人に頼られる、みんなの役に立つ仕事に就きたいです。

今はまだ薬剤師になるにはどうすればよいのかも分かりません。「やれば良かったな」と後悔しないように緊張する時もあるけれど、今の姿勢を続けて「やって良かった」といつも思えるようにがんばりたいです。



松浦小
原 京二郎

ぼくの夢は、建築士になることです。どうしてかというところ、ぼくはものを作ったり考えたりのことが好きだからです。

ぼくの家は、半分は百年以上前に建てられた、とても古いものだといわれています。天井には、こげ茶色の梁(はり)といわれる大きな木がむき出しになっています。柱や梁には、釘などの金属はなく、木と木につき目を作って組んであるのがわかります。ぼくは、これをとてもカッコいいと思います。

これまで、ぼくのご先祖様が代々住んできたこの家を壊さずに、古い良さを残しながら、安全に住める家に変えることができたらいいなと思います。だから、ぼくは建築士になりたいと思います。そして、日本中の古い家や建物の良さを伝えていくことができる人になりたいなと思います。



金泉中
鶴田乃々佳

未来の私は好きな英語を生かした仕事に就けていますか。私は英語をはじめ、韓国語や中国語などさまざまな言語に興味があり、勉強したいと思っています。高校では、学校の学習に加え、たくさんの方と交流をしたり日本の文化を伝えたりしていきたいです。そのために、次の二つの事に力を入れていこうと思います。

一つ目は、自ら積極的に話し



東部校
吉村 夢星

ぼくの将来の夢は、プロ野球選手になることです。二つ年上の兄が野球部に入っており、保育園の頃からいつも試合を見に行っていました。一年生にならずに野球部に入部しました。

父親がコーチをしていたので毎日キャッチボールをしたり素振りをしました。だんだん試合に出れるようになり野球がどんどん好きになりました。四年生の時には佐賀県大会で優勝して東京であった全国大会にレギュラーとして出場できました。

今は六年生が集まり多岐で一つのチームを作り、そこで副キャプテンとして頑張っています。六年ばかりが集まっているのもみんなが上手く、自分にとっても勉強になります。寒い中での練習や試合がありますがプロ野球選手になるという夢を実現させるため自分にできる努力をこれからも一杯していきたいです。

かけるようにすることです。今までは初めて会った人に自分から話しかけることが苦手でしたが、これからは恥ずかしがらずにたくさんの人と交流していきたいと思っています。

二つ目は、日本の文化の知識を深めることです。最近、「有難う」の語源は知っていました。「どういたしまして」については知らなかったので調べてみました。まだまだ知らない事がたくさんあるのでこれからも調べていこうと思います。

これら二つの事に力を入れ、語学力を高めていきたいです。

ランドセル



大きな真新しいランドセルを背負い、小学校に入学したのは六年前のこと。町外の幼稚園に通っていた息子は、入学式の日、終始不機嫌でした。自分はなぜ友達と同じ学校へ行けなかったのか、どうして自分だけ知らない子どもたちの中におしゃべりもできず置かれていたのか、腹立たしさと心細さがあつたと思います。

そんな様子には少し心配していましたが、三日ほど経つと笑顔で学校に行くようになり、新しい友達が出てきたのです。帰ってきてもおやつより宿題より友達と遊ぶのが最優先。子どもは羨ましいですね。友達がすぐできます。そして、その友達と本音で接します。思い通りにいかない悔しさや分かってもらえない悲しさで涙を流すこともあれば、一緒に何か成し得た時の喜びや感動、分かった時の嬉しさで大はしゃぎすることも。一人一人が違った考えを持っていて、ぶつかり合ったりするけど、それも含めてお互いを認め合っている、それも無意識に。大人になって、幼馴染みに会った時の何ともいえない安心感はこの時期に培われたものだと感じました。

もう卒業です。身長が一六〇センチを優に超える息子の背中にちょこんとあるランドセル。こんなに大きく心も身体も健やかに成長してくれた息子と、息子を見守り、支えてくれた友達、先生方に感謝します。ありがとうごさいます。

有田中部小 P 宮地 尚子

贈る言葉

卒業おめでとう



三根東小P
岡 宗臣

卒業生の皆さん、保護者の方々、ご卒業おめでとうございます。卒業生のみなさん、今みなさんの心の中には、小学校六年間の友達との思い出や経験を懐かしがったり、中学校への期待と不安が、少しずつこみ上げていると思います。六年間、小学校で沢山の時間を共に過ごした友達。友達は、将来大切な宝になり、大切な思い出になります。

また、小学校では、優しく、熱心に勉強を教えて下さった先生。優しい目で、見守ってくださった地域の方々。そして、今日まで、そして、これからも、精一杯の愛情を込めて育ててくれた家族。皆さんは、何気ない生活の中で、沢山のひと、出会い、支え合い、助けて貰いながら生活しています。これから、中学校に入り、新しい環境で、悩んだり、困難にぶつかる時もあると思います。そんな時、友達や助けてくれる人が、みなさんの側にいます。そういう人への感謝する気持ちを忘れないでください。

これから、皆さんが夢や希望を見つける事、そして自身だけでなく、周りにいる人達を思いやりの心で大切にできる人として成長される事を心から願っています。



高木瀬小P
関谷 一昭

卒業生の皆さん、卒業おめでとうございます。特別な年になるであろう「平成」最後の年に小学校、中学校を卒業する。そのあなたの達の記憶にどういう形で残っていくのか、印象深く残っていくのか、もちろんみなさんは中学校、高校へ進学するでしょう。その時には新しい年号のカレンダーを目にしていることと思います。年号が変わったからと言って、私達の日常が変わるわけではありません。ただ、進級したり進学したり新しい夢に向かって一歩踏み出そうとするときには、何かキッカケが、皆で共有できる何かがあると決心決断がしやすいのではないのでしょうか。この時期を特別なものととらえて色々な人と話す良い機会にしてみてください。

小学校から中学校へ中学校から高校へ、子ども達は親が思っている以上に大人になっているような気がします。いつのまにか親の手を離れ立ちの時期にきているのではないのでしょうか。一人の人間として接する良い機会にできればいいなと思っています。保護者として何ができるのかではなく、どう手助けができるのか一緒に考えていくことの方が大切になっていくのではないかと最近思うようになりました。

自分の考えを書き連ねてきました。親の尺度で子ども達を制限しないように、人と保ち合えるように一緒に考えていければと思います。



大川内小育
大久保雅通

六年生の皆さん、保護者の方々、ご卒業おめでとうございます。小学校での六年間は長かったですか、それとも短かったですか。私は縁があり六年前の入学式では保護者代表の挨拶に続き卒業にも関わる事が出来ました。

六年前、私は小学生の親一年生として、皆さんと共に入学しました。親として、先輩として追いかけてくれていたと、思っていた子ども達を気が付けば、追いかける事が多くなり成長の早さに驚く六年間でした。

勉強はもちろんですが、楽しかった事、苦しかった事、色々な経験で今の自分になっています。皆さんはどんな大人になりたいですか。大人になるまでには、まだまだ沢山の勉強や経験が必要です。

私の好きな言葉で、「明日死ぬかのように生きよ。永遠を生きるかのように学べ。」という言葉があります。二十歳で大人であるなら、皆さんは約八年後には大人になります。昨日の経験で今日があり、今の想いが明日の自分になる。なりたいたい自分になれる様、精いっぱい今を楽しんで下さい。人の数だけドラマがあり、想いの分だけ可能性が広がります。素敵な大人になる皆さんを、とても楽しみにしています。



牛津中P
山本 哲生

卒業生の皆さん、九年間の義務教育を終え、ご卒業誠におめでとうございます。

中学校で過ごされた三年間を振り返ってみて下さい。大人へと成長する段階で多くのことを学び「心技体」全てにおいて大きな変化があったことと思われれます。生徒会活動・中間期末他の各テスト・課外活動(中体連・体育大会・津拓祭等)の色々な事を経験し努力している姿を私達は見ることができ嬉しく思いました。これまでの同じ道を共に歩んできた人達に感謝の気持ちを忘れずに、ここで得た事全てをよき思い出として大切にしていきたいと思います。

しかし、義務教育を終えただけです。これまでの基礎を応用しこれから先もまだまだ学ぶ事がたくさんあります。人は学ぶことに対して限界はありませんし進化できます。努力は決して嘘をつきません。人を思いやり「ありがとう。」や「ごめんなさい。」を勇気を持って言葉にして下さい。人は決して一人では生きてはいけません。あなたを必要とする人が必ず現れます。それぞれの新たな道へ希望を持って出発して下さい。

入賞おめでとう

新春読書感想文コンクール入賞 佐賀県PTA連合会長賞決定

大川内小学校	2年	森 涼介
伊万里小学校	3年	堤 誠矢
循誘小学校	5年	毛利実沙紀
香楠中学校	3年	朝崎 花菜
佐賀市	一般	小池加代子



平成30年度 いじめ防止標語コンテスト入賞おめでとう

たくさんのご応募ありがとうございました。小学校100校、中学校59校 応募総数34,172作品

○全国賞

小学校の部	『お母さん 言っているいいよね 心の本音』	多久市立東原座舎東部校	5年	湊 友茜
中学校の部	『となりにいる ただそれだけで 心のおもりは半分』	上峰町立上峰中学校	1年	田村 心彩

○優秀賞

小学校の部	『だめだよと くちが あかない なぜだろう』	佐賀市立南川副小学校	3年	竹下 百星
	『泣いている わたしが出番 出動だ』	唐津市立巻木小学校	5年	小松 祐月
中学校の部	『その涙 ふきとる前に 僕に言え』	佐賀市立城南中学校	3年	鬼橋 空輝
	『つくらない 差別の壁を 違いの溝を』	小城市立小城中学校	3年	石井日菜子

○PTA推薦賞

小学校の部	『ハンドサイン 悪口よりも 傷つくよ』	佐賀市立循誘小学校	6年	山崎 柊
	『いじめはね、しんらいちきんが へっていく』	白石町立有明西小学校	3年	菰田 大吾
中学校の部	『そのいじめ 一つの言葉で 百の傷』	唐津市立肥前中学校	1年	小山 莉旺
	『本当は 良い僕なのに 悪あつかい』	佐賀市立鍋島中学校	1年	ムテール タラール

編集後記

新聞編集委員長

上峰小P 藤吉 恵美

「ありがとうございます！」
原稿依頼を快く引き受けていただいた皆様、そして、一年間私と一緒に編集作業にあたってくださった編集委員の皆さん、それから、この新聞を読んでもくださっている皆さん、すべての関係者の方々にありがとうございます。沢山の協力でこの新聞ができています。少しづつの力が大きなものを作り上げている事を更に実感した一年でした。これが未来を担う子どもたちへも影響していくものだと思います。お父さんお母さん、これからみんなで少しずつ頑張りました。ありがとうございます。

平成30年度新聞編集委員

- ・鳥栖小(副) 瀬戸健太郎
- ・千代田西部小 次郎丸真也
- ・城東中 江副真由美
- ・牛津小 戸村 愛佳
- ・東部校 豊川 香
- ・第一中 岸本 弘子
- ・青嶺中 梶山 康正
- ・西有田中 藤田 智子
- ・御船が丘小 川口 泰弘
- ・大町ひじり学園 中川 悦子
- ・明倫小 宮崎 昭人
- ・大野原小中(副) 峯 千代子



平成30年度市郡連リーダー研修会

平成31年2月2日(土)
於: ガーデンテラス佐賀 ホテル&マリトピア

講演①

講師 日本PTA全国協議会会長

東川 勝哉様

演題

「日本PTA全国協議会
七十年の歩み」
～PTA活動の意義と必要性～

講演②

講師 佐賀県教育庁 学校教育課参事

伊東幸一郎様

演題

「力を合わせて子どもたちの未来をつくる」



各市郡連役員・単位PTA（育友会）役員等
二一六名の方々にご参加いただきありがとうございました。



市郡連リーダー研修会参加の感想



牛津小P
右近 貴臣

今回の研修で、日本PTA全国協議会の東川会長のご講演を聞き、改めてPTAとは何かを考えさせられました。

東川会長は、「(自分の子どもが通う)学校が何を目指しているのかご存知ですか?」と問われました。

うちの子どもが通う牛津小学校のホームページにも「学校教育目標」が校長先生のお言葉として掲示され、学校より配布される「学校だより」にも標題の下に毎回掲示されていますが、今まであまり意識したことがありませんでした。

これからは、校長先生がおっしゃる「ひとつを大事に」しながら、先生や地域の方々、保護者の方々と一緒に活動していきたいと思っています。



西部中P
松尾 博雅

去る二月二日(土)平成三十年度佐賀県PTA連合会市郡連リーダー研修会に参加してきました。今年度は、(公社)日本PTA全国協議会の東川会長の講演があり、PTA活動の内容や歴史についてお話しされ、あらためてPTA活動の重要性を感じることができました。「家庭や学校、そして社会がそれぞれ教育の責任を分け合い実施していく」また、「正しい情報を家庭や学校、社会で正しく伝え、情報の共有化を図る」このことが、子どもたちの健全育成に繋がると再認識することができました。

今後は、リーダー研修会で学んだことをPTA会員の仲間に伝えて、楽しくPTA活動が出来ればと思います。



大野原小P
池田 研二

今回の研修会に参加させて頂き多くの学びを得る事が出来ました。

東川日P会長による、日本のPTAの歴史、御自身の経験談を聞く中で、自分自身のPTAとの関わりを振り返る良い機会になったと思います。リーダーとは方向性を示していくのが役割と話されました。

昨年度より市郡連の会長を務めさせて頂いておりますが、この二年間その役割をきちんと果たせていたかと考えると疑問が残ります反省しています。

日本の教育は人格の形成を目指しています。より良い人格を育てるためにPTAという組織を使い何が出来るのか、子ども達のびのびと成長していけるように、自分自身も成長していく必要があると感じています。

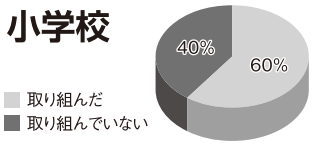
ノーテレビ・ノーゲーム結果報告 ～親子の会話をつなげる～

(単位%)

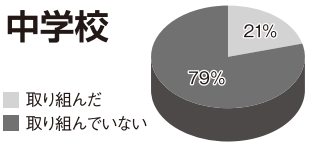
	小学校		中学校			小学校		中学校	
	取組んだ	取組んでいない	取組んだ	取組んでいない		取組んだ	取組んでいない	取組んだ	取組んでいない
鳥栖地区	52	48	14	86	伊万里市	64	36	13	87
三養基郡	43	57	24	76	西松浦郡	60	40	28	72
神埼地区	62	38	21	79	武雄市	70	30	21	79
佐賀市	52	48	14	86	杵島郡	77	23	56	44
小城市	69	31	20	80	鹿島市	77	23	35	65
多久市			35	65	嬉野藤津	78	22	33	67
唐津地区			16	84	率(%)	60%	40%	21%	79%

※小中一貫校は中学校にはいっています。

小学校



中学校



市郡連独自の取り組み等アンケート調査

- ①毎月や年3～4回設定期間の中で取り組んでいる。
- ②ノーマディアデー週間や親子読書・家読なども実施結果をお知らせしている。
- ③カードを作成し状況記録を提出している。
- ④ノースマホデーを付け加えて、実施前日に一斉メールの周知をしている。
- ⑤全クラス対抗のクラスマッチ形式で実施して3位まで表彰をしている。

平成29年度青少年のインターネット利用環境実態調査

※平日1日に利用している時間 (単位: 時間)

	2時間以上	※2～3時間	※3～4時間	※4時間以上
小学生	33.4	17.3	7.7	8.4
中学生	56.7	21.2	14.4	21.1

※は、2時間以上利用している割合の内訳

平成29年度佐賀県小・中学校学習状況調査【4月調査】結果では、1日当たり、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネット(ゲームを除く)等を長時間利用している子どもほど、正答率が低くなるという結果が出ています。

また、「ネット依存」の主な症状や問題は、「朝、起きられない」「学校を遅刻・欠席」「昼夜逆転による睡眠不足・栄養不足」などがあり、生活習慣の乱れにもつながっています。

- ①携帯端末には、フィルタリングを設定すること
- ②携帯端末の利用時間やSNS等の危険性について、親子で認識を共有した上で、見守りを行うこと
- ③個人情報投稿しない、SNS等で知らない人とつながらない等、親子でSNS等の利用のルールについて話し合い、設定すること



(佐賀県教育委員会)

子どもたちに迫る

SNSの不適切な利用による危険性

近年のインターネット等の急速な普及に伴い、インターネットにつながるいわゆる携帯端末(スマートフォン、音楽携帯端末、ゲーム機等)を介して、子どもたちのSNSの利用が増加しています。それらは高い利便性が認められる反面、利用に夢中になってしまい生活習慣が乱れたり、使い方によっては犯罪やトラブルに巻き込まれたりする原因にもなっています。

長時間のSNS、インターネットの利用が、学力低下、生活習慣の乱れにつながります！

SNSの不適切な利用により、子どもたちが、犯罪被害に遭うケースや加害者となるケースが増加！

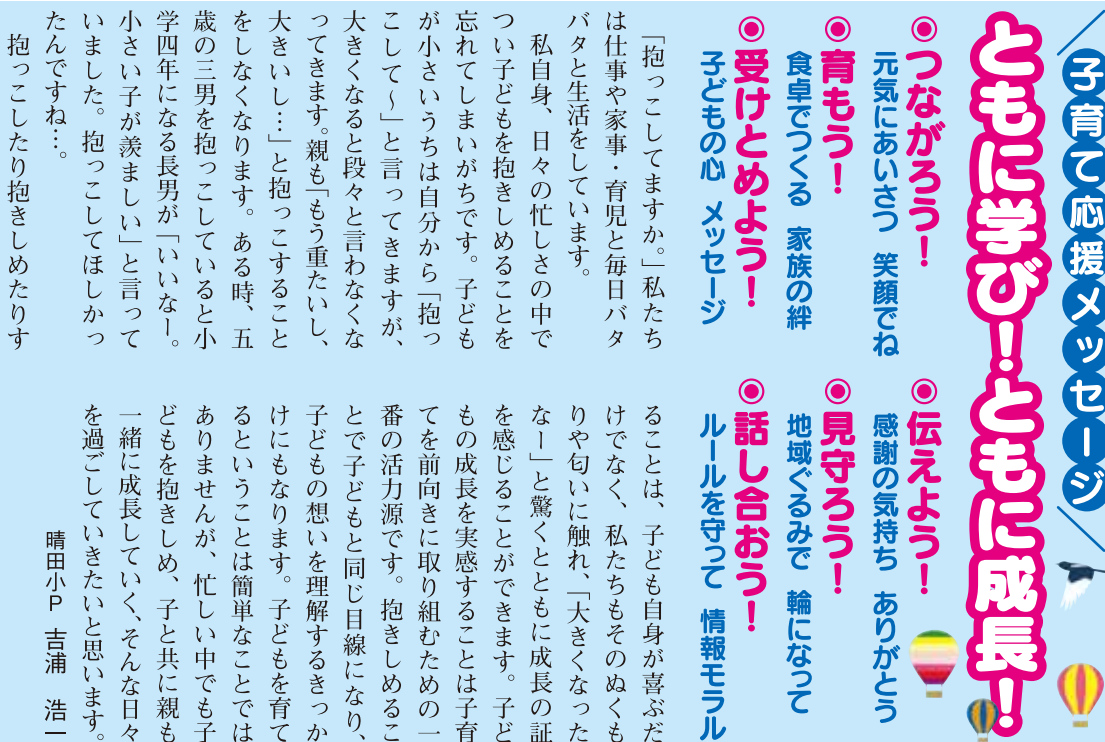
一方、警察庁のまとめで、平成29年1年間にSNSの利用に伴う事件に巻き込まれた18歳未満の子どもは1,813人で、統計を取り始めた2008年以降で最多だったことが分かりました。スマートフォン等の普及が子どもにも広がる中、SNSで知り合った相手に自分の裸を撮影して送るよう強要される「自撮り被害」の増加などが背景にあるとみられています。県内においても、自撮り被害やSNSを通じて知り合った人に会ったために家出をするなどの深刻な事案が発生しています。

また、平成29年度の学校ネットパトロールからのSNSを紹介した不適切な画像や動画の送信、拡散や個人情報掲載等の報告件数が、小・中学校だけで70件に上っており、SNSの不適切利用に歯止めがかかっていない状況にあります。

児童生徒が、ネットを通じ、いつ重大犯罪の被害者・加害者となってもおかしくない、大変憂慮すべき状況にあります。

このことから、SNSの不適切利用によって生じる問題や長時間利用による生活習慣の乱れなどは、学校での指導に加え、保護者自身が問題意識を持ち、子どもを指導するなど、保護者の理解と協力が不可欠です。特に、保護者に求められることとして、

P子先生
第100回 宗俊朗



特色ある 単戸の活動

～小城市・鹿島市編～ **Vol.57**

砥川小学校の
PTA活動

砥川小P
池田
祐明

砥川小学校は、今年で創立百四十二年の歴史ある小学校です。

また、砥川地区は天才石工、平川四右衛門が手掛けた石仏文化が残る地区で、石工の里として親しまれています。

平成三十年度の児童数は百五十六名で、全学年一クラスの単学級です。特別支援学級が五クラスあり、全十二学級の小規模校です。

本校PTAは、本部役員が十二名・地区理事七名・学級理事十

名の計二十九名で、専門部会は保健部・厚生部・広報部の三部で構成され、PTA活動を行っております。その中の一つをご紹介します。

土曜日授業の一環として、もちつき会を実施しています。このもちつき会は歴史があり昭和六十三年三月に新校舎が完成したのを機に行なっており今年で三十年になります。

この間、砥川地区の方々に見守られ、受継いで来ました。今では、砥川小の特色を自慢としてもちつき会を絶やすことなく続けていくと団結しています。

もちつき会のもち米は、田植えから始まり、地域の方から水田をお借りして、三・五年生で田植えをしています。

また、稲の収穫も自分たちで行い、収穫の喜びも体験させていたいです。もちつき会前日には、六年生と一緒に学校職員・保護者で和氣舘々と準備を行っています。子どもたちは、大人や友達と協力することの大切さを学んでいると思います。もちつき会当日は、感謝の会を開催し、田植えの準備や水田を貸してくださった方や指導をしてくださったJA職員、また、砥川小サポーターの皆さんなどを招待し、感謝の言葉や歌を披露します。

その後、運動場へ集合しもちつき会開催です。

始めは、保護者のお父さん方に餅をついてもらい、次に子どもたちが順番に餅をついて行きます。

もちつき一回目の餅は、お世話

の感謝の気持ちを含め四年生がメッセージにした文章と一緒に配布しました。二回目は、おかあさん方に餅を丸めてもらいました。

子どもたちが美味しそうに食べている笑顔を見ると、癒されてもちつき会の準備の苦労など吹っ飛んでいきます。

もちつき会の後片付けは、全児童と保護者や学校職員と一緒に
なつて楽しく行ないます。

この、伝統あるもちつき会を子どもたちの可愛い笑顔の為、砥川小のPTAは、呆

護者や学校職員、また、地域

の方々の協力を
得て引き継いで
行きたいと強く
思っています。
決意しています。

北鹿島小学校の
PTA活動

北鹿島小P
会長 原田 雅孝

鹿島市北部に位置し有明海を望む広大な田園地帯に立地する北鹿島小学校。鹿島藩主「鍋島直朝公」により築城された「恒広城」跡に明治七年開校された古き伝統と豊かな自然に恵まれた小学校です。

本校は「命・ひびきあい」の教育目標を掲げて、地域諸団体のご協力のもと地域、学校、PTAが一体となり様々な活動に取り組んでいます。体験活動として昔遊び、町探検、みそ作り、海苔摘み疑似体験、北鹿島川を守ろう、米作りの素晴らしさなど、数々の貴重な内容を通じて郷土を愛する心を親子で共に学んでいます。その他にも地域の方々と連携した「北鹿島地域見守り隊」を結成し年三回の一斉下校指導を実施、またいろいろな地域行事への参加など学校と家庭だけでなくそれを育む地域と一体になり子どもたちの成長を見守っています。

単Pの構成として「総務広報部」「母親部」「保健体育部」「生活環境部」の四つの専門部からなり保護者をはじめ地域の方々の支援のものと活動を行っています。年度末には各専門部毎の一年間の総括として事業検証を行い先生方、PTA役員の負担軽減を目的とした事業効果を検証し継続、改善、廃止等の会議を実施。次年度、少しでもより良いPTA活動へ導けるよう取り組んでいます。

北鹿島小PTAは、これからも子どもたちの笑顔のために先生方、保護者、地域の方との人と人とのつながりを大切にした活動を行っていききたいと思います。



佐賀県PTA連合会推薦 小・中学生総合保障制度(こども総合保険)について

お子様の「ケガ」「育英費用」やご家族の「個人賠償責任」などに備えられます。

学校内はもちろん、放課後の遊戯中・クラブ活動中や
休日のレジャー中の事故など様々なケガに備えられます。

他人にケガを負わせたり、他人のものを壊したりして法律上の損害賠償責任が生じた場合に備えられます。



※保険商品の概要を説明したものです。詳細につきましては取扱代理店にお問い合わせください。

○制度に関するお問い合わせ先：**0120-228-553** 佐賀県PTA連合会保障制度事務局（取扱代理店：株式会社コーリン）
受付時間：平日午前9時～午後5時（土・日・祝日、年末年始を除く。）

○制度引受保険会社：AIG損害保険株式会社 東京海上日動火災保険株式会社 損害保険ジャパン日本興亜株式会社

2019年3月現在の内容です。